

令和3年度第2回枝幸町地域公共交通活性化協議会 報告書

【開催日時】 令和3年10月13日（水） 13：30～14：50

【開催場所】 枝幸町役場3階 第1・2会議室

【出席者】 協議会委員 別紙のとおり17名（欠席3名）

枝 幸 町 阿部まちづくり推進課長、まちづくり推進課戦略推進G佐藤主幹、
札幌主査、宇佐美主任

オブザーバー 雄武町役場財務企画課 横田課長、浜頓別町役場総務課 櫻庭課長補佐

1 開会

阿部課長より挨拶、開会

2 会長あいさつ

今井会長より挨拶

3 議事：会長により進行

(1) 地域公共交通の再編成について（事務局の説明により了承を得た）

説明資料：地域公共交通の再編成について

書面審議でいただいた質疑・意見及びこれに対する回答

◇事務局

第1回協議会の書面審議による回答については、委員の皆さまより提出いただきありがとうございました。事務局から提出した令和2年度事業報告、収支決算、令和3年度事業計画、収支予算につきましては、いづれも承認をいただいております。

本日、第2回目につきましては、前回協議事項として提出していた地域公共交通の再編の中の、コミュニティバスの再編案から運行ルート、内容を一部変更している。

また、質問、意見等の提出があった資料を、別紙にて配付しているものになるが改めて、これから説明する再編の内容と併せて回答させていただき、その後、全体を含めた質疑の中で意見交換を行いたいと考えている。

第1回にお配りした資料からの変更点については、A4横の資料、地域公共交通再編成についての資料P7コミュニティバスの再編案で歌登地区停留所の追加及びP8・9にコミュニティバス移行後の運行ルートを添付している。

次に資料「地域公共交通の再編成について」の内容について説明させていただく。

再編の方向性としては、1つは現在宗谷バスで運行している歌登線の路線バスを廃止し、枝幸市街地を循環している三笠線と統合し、町の直営によるコミュニティバス化に転換する。

もうひとつが、現在、歌登志美宇丹方面と毛登別・本幌別方面で運行している地域生活支援交通の見直しになる。見直しにあたっては、枝幸町地域公共交通網形成計画に基づいた、歌登線・三笠線の統合による効率的な運行の移動実態に即した、町内の公共交通サービスを検討するとした個別の施策として実施するものであるが、すでに報道もされており、ご存じの方もいると思うが、歌登診療所と介護老人保健施設が、今年度末をもって、現在閉鎖する方向で進められているが、閉鎖後の地域住民への影響緩和を確保するために、コミュニティバスの転換に併せて、歌登市街地の全町をカバーするとして、当初示した内容から桧垣町・南町に停留所を設け、通院等を含め町内の移動の利便性を図る。

続いて、資料の説明をさせていただきますが、事前に配付していますので要点を中心に説明させていただきます。

●P1

バス路線の効率化と持続可能な公共交通体系の構築を目指すための基本計画として、皆さまにも協議・検討いただきまして、枝幸町地域公共交通網形成計画を、令和元年9月に策定いたしました。資料左上、この計画が目指すものと書かれているところの、中段一方でからになります。現在、町内の公共交通のうち、路線バスについては、年々利用者の減少から、浜頓別・雄武線の地域間路線は、これまでの国、道からの補助金が基準を満たさなくなったため、昨年から町の運行経費補助のみで路線維持することとなり、負担も大幅に増加している状況である。資料右側の、枝幸町が目指す地域公共交通の将来像として、現在の旭川・札幌線の都市間路線、浜頓別・雄武線の郊外路線と併せ、町内の歌登線と枝幸市街地を循環している三笠線の再編を行うことで、効率的な運行を目指すとしている。

●P2

昨年実施している各路線の再編の内容について、①浜頓別線②音標・雄武線は共に昨年4月1日から両方面行き各1便を減便し、枝幸方面行き1便を土曜日、日曜日、祝日及び休校日を運休する見直しを行った。

また、音標・雄武線の両方面行き4便のうち、午後の1便を音標の郡界折返し便に変更した。

③公共交通のカバー率が50%以下となっている、音標・雄武線の沿線にあたる枝幸南部地区方面の内陸部を対象に、利用者から予約があった際に運行するデマンド型交通の実験運行も昨年10月から実施している。

●P3

次に、今回見直しを行う歌登線の関係になる。

始めに、現在宗谷バスで運行している利用状況については、枝幸高校に通学している生徒が主で、その他通院、買い物が目的の70代から80代の高齢者の利用がほとんどである。

今後は、町内の移動となるため、現在の宗谷バスの運行ではなく、町直営によるコミュニティバス路線へ転換する。なお、実際の運行については、町と民間との分担運行として、来年7月からの運行を予定している。

なお、転換にあたっては、利用者の少ない便を減便し、効率的の面からも、現在、平日のみ枝幸市街地を循環している三笠線との統合も行う。

次に③公共交通の空白地域を支援するため、志美宇丹方面、毛登別・本幌別方面から歌登市街地まで運行している地域支援生活交通は、現在年齢を問わず平日の週5日予約にて運行しているが、今後は運行地区を対象に行ったアンケート調査の結果や、現在実験運行している枝幸南部地区でのデマンド型交通の本格運行を見据えた中で、来年4月から運用の統一を予定している。

●P4

志美宇丹方面と毛登別・本幌別方面での地域生活支援交通の過去10年間の利用者と年間の委託料をグラフにしたものである。両方面とも青のグラフになるが委託料が若干上がっているのに対し、赤線グラフの利用者は年々減少している。

昨年と今年については、コロナの影響もあり外出の頻度が減っていると思われ、また、利用頻度が多かった方も転居したこともあり、利用者も大きく減少したと思われる。

●P5

今回、歌登線をコミュニティバス化に転換するにあたっては、現在の宗谷バスの運行形態を廃止することが前提となる。そのため、宗谷バス側とは今年度早い段階から協議を行ってきており、協議内容について、見直しを行うに至った背景と、理由について添付している。

以下、P5に記載の【背景と理由】について説明

●P6

P6については再編後の内容について記載している。

●P7

P7には実際の運行表の案を掲載している。

次に、再編の内容については、現在、宗谷バスによる歌登線及び平日のみ枝幸市街地を

循環している三笠線とを統合する。

運行表の上の表、現行の便数の下に月の利用人数を記載しておりますが、ここが、一桁と10人台の利用人数の便を減便する方向で再編し、利用者には影響の少ない形で考えている。

再編後の運行便でいいますと枝幸市街行き1便は、主に枝幸高校へ通学する生徒の利用となりますので、歌登を出発した後、バイパスを經由し、直接枝幸高校に向い、通院が目的の高齢者も数名乗車している場合もあるので、国保病院を經由し、枝幸ターミナルへ戻るというルートに変更している。この便については、現在と同様、土曜日、日曜日、祝日は運休とする。

また、赤枠で囲っている部分については、土曜日、日曜日に枝幸高校の生徒で部活動を行っている生徒が、人数は少ないが利用がある状況であるため、土曜日、日曜日でも運行する方向で考えていますが、現在枝幸高校と協議している。

その他、歌登市街行き1便及び折返し便の枝幸市街行き3便、歌登市街行き2便も残す方向で考えていますが、歌登市街地行き3便については枝幸高校の生徒で部活動を行っている生徒が、歌登市街行き2便で帰宅できない生徒の利用がほとんどなので土曜日、日曜日、祝日は運休と考えている。

なお、コミュニティバス再編案の時刻表に音標・雄武線の時刻表を載せていますが、先ほども触れましたが、音標の郡界折返しが掲載の便になる。この便についても枝幸町の区域内での運行となるため、令和4年10月からコミュニティバスに転換したい旨、宗谷バスへ申し入れをし、先日再度協議を行い、宗谷バス側より了承を得ている。また、雄武町とも、協議を行い了承を得ている。

見直し後の運賃体系については、定期券利用と高齢者パスの利用が大半と町内の中での移動のため、無料の方向で考えている。

●P8・9

P8、枝幸市街の運行経路図で、青の経路が枝幸市街行き、枝幸高校へ行く1便のルートとなり、緑がそれ以外の枝幸市街行きの経路、赤が歌登市街行きの経路となっている。

P9、歌登地区の経路図となっており再編後は、新たに紫が桧垣会館前、青が若葉団地前を追加する方向で考えている。

●P10

デマンド型乗合タクシーの変更案ということで、現在、枝幸南部地区で行っている実験運行と地域生活支援交通（歌登地区）の運用の統一を図るということで考えている。

現在の路線バスと同様、コミュニティバスに転換になっても、枝幸市街行きと帰りの便につきましては、それぞれ接続便とすることで考えている。

また、運行する曜日については、国保病院の出張医の関係もありますので、利用人数の

多い日で運行することを考えておりますが、歌登診療所の閉鎖後の診療体制が見えない部分もございますので、その結果を踏まえ、今後、歌登総合支所と詰めていきたい。

●P11

当面のスケジュール予定について、1. デマンド型乗合タクシー、2. コミュニティバス路線共に、今回改めてお示しした内容について、皆さまからの意見等を踏まえまして、年内には最終案を決定し、改めて委員の皆さん、議会、更に地区の方々へ説明を行い、デマンド型乗合タクシーは令和4年4月から、コミュニティバスについては令和4年7月からの運行に向けて準備を進めていきたいと考えている。

●P12

1. 町民の乗車運賃の実質無料化による取扱いについては、①では現在、枝幸市街地以外から各学校に通う生徒に対し通学定期券の補助を行っているが、その事務については、小・中学校分は学校で購入し、教育委員会事務局から宗谷バスに対し毎月支払いをしている状況である。高校分については、3か月ごとに保護者が宗谷バスから購入し、その購入費を教育委員会事務局から保護者へ支払を行っている。そのため、保護者には一時的ではあるが負担になっているところもありますので、高校分につきましては、町による一括購入、宗谷バスへの一括支払いができないか確認したところ、対応は可能であると回答をいただいた。

これによって浜頓別、音標・雄武線を利用している生徒の通学定期購入事務については、今後、新年度からの取扱いの変更に向け、詰めていく予定である。

もうひとつが、現在、町の事業で行っている高齢者無料バス助成事業ですが、満70歳以上の方の希望者に対し、宗谷バスが運行する町の行政区域内を運行する定期バス路線に限って、パスカードを発行している。見直しにあたっては、この事業を廃止し、新たに希望する町民に年齢制限を排除した無料パス券を発行する。

また、現在の高齢者無料バス助成事業と同様、町内の区域内に限ってパス券を利用した区分間を、毎月町が宗谷バスに支払いをすることによって、実質町民の利用については無料化にするというもの。

2. 音標・雄武線の一部コミュニティ化への転換については、先ほど、P7の再編案の中でご説明させていただいておりますので省略させていただく。

3. 都市間バスえさし号「札幌線」の車両更新に伴う、要望事項の確認と支援内容について、現在運行の枝幸～札幌間の都市間バスについては、平成24年度に更新した車両と平成28年度に購入した車両2台で運行してきたが、平成24年度に更新した車両が9年を経過し老朽化、年々修繕費も増加し、安全運行に支障をきたす恐れがあるとのことから、宗谷バスより中古車両2台の更新について支援要望があり、車両購入費のうち3,200万円を支援することで9月の定例議会の方へ補正予算を提出し、可決された。

今後、旭川線を含む都市間線のダイヤの見直しについても宗谷バス側へ要望した中で、地域の公共交通を一体的に、さらに見直しを図っていきたい。

なお、車両については、先月25日宗谷バス枝幸営業所へ納車され、運行もしている。以上資料の説明。

引き続き、第1回書面審議の協議事項で提出のあった意見等について、別紙にて、報告

【委員からの意見等】

◆田部委員（枝幸町商工会 事務局長）

南部のデマンドタクシーは、各南部の地域から枝幸までの直通運行となっているのは、問題ないが、歌登地区のデマンドタクシー「本幌別・中央・毛登別方面」の利用者は、老人の方が多く、タクシーに乗り歌登ターミナルに行き、路線バスに乗り国保病院に行くのが負担になるので、枝幸南部のデマンドタクシーと同様の運行ができないかお聞きしたい。

◇事務局

枝幸地区南部の内陸部のデマンド型交通を実験運行したのは、沿線については、路線バスが確保されているが、そこに各郡部の山側の方が接続できないということが、以前からの懸案事項であった、そのため昨年10月から枝幸市街地までの実験運行を開始した。なお、歌登地区については、以前より地域支援交通が始まっており、歌登から枝幸市街地までは路線バスが確保されていますので、従来どおりの運行と考えている。

◆田邊谷委員（有限会社歌登ハイヤー取締役）

コミュニティバス（歌登・枝幸間）市街地以外の停留所でも乗車できますか。

◇事務局

共同の乗降場での乗車と考えている。

4 その他

なし。

5 閉会

14：50分閉会